



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

STOP THE

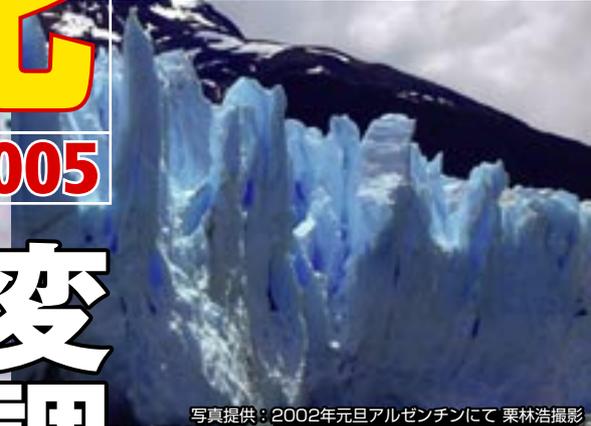
温暖化

環境省 2005

変調をきたす
地球の気候
温暖化防止は
まっただなし!!



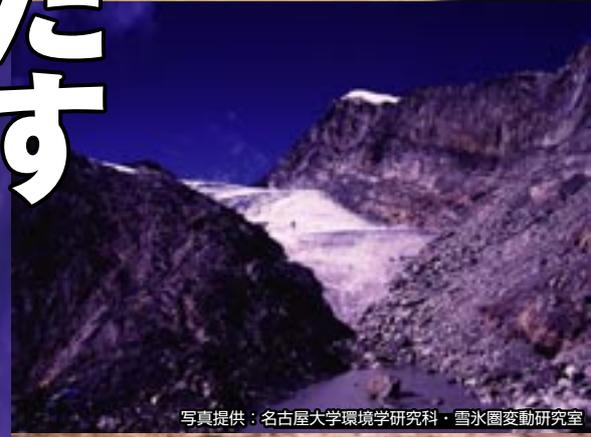
崩壊するラーセン棚氷 (文献2より)



写真提供: 2002年元旦アルゼンチンにて 栗林浩撮影



写真提供: 2005年ツバルにて 森田香菜子撮影



写真提供: 名古屋大学環境学研究所・雪氷圏変動研究室



エルペ川の小支川ミュウグリッツ川において救助を待つ人 (文献3より)

Contents

異常気象の頻発／温暖化の影響が顕在化／温暖化のメカニズムと原因
2100年には、最悪の場合5.8℃気温が上昇し、88cm海面が上昇する
気候変化のパターンは地域により異なる／温暖化のもたらす深刻な影響
温暖化の対策がめざすもの／世界と日本の排出量の推移／温暖化防止の鍵を握る京都議定書
我が国の温暖化対策／ポスト京都に向けての取組／もう一つの温暖化対策——適応策／おわりに

森林火災 アラスカ (6~9月)

アラスカでは過去最悪の森林火災が発生。6月以降の焼失面積は約250万ha。

寒波・大雪

米国中西部~東部 (2003年12月~2004年1月)
米国中部~南部 (2月)

米国中西部から東部では12月から1月、米国中部から南部では2月の寒波や大雪により110人以上が交通事故や低体温症で死亡。多数の航空便の欠航や鉄道の運休、学校の休校や停電など広範な被害が生じた。

ハリケーン 米国南東部・カリブ海諸国 (8~9月)

米国フロリダ半島では8月上旬にハリケーン「チャーリー」が通過。米国南東部等での暴風による死者は23人、米国での倒壊家屋は1万2000戸、損壊家屋は約5万戸。9月にはハリケーン「フランシス」「アイバン」「ジーン」がカリブ海諸国を通過して米国東部に上陸し、死者はそれぞれ、米国を中心に35人、米国・グレナダを中心に115人、ハイチを中心に3000人以上。

熱波・森林火災

スペイン・ポルトガル (6~7月)・ヨーロッパ南東部 (7月)

スペインでは6~7月に熱波により11人が死亡。スペインとポルトガルでは森林火災が多発し、それぞれ4万、10万5000haの森林が焼失。ルーマニアやマケドニアなどでは7月前半に熱波により、33人以上が死亡。

大雨・洪水 ハイチ・ドミニカ共和国 (5月)

ハイチとドミニカ共和国で、5月下旬に豪雨による洪水が発生。死者数はそれぞれ1000人以上、400人以上。

大雨・洪水

ブラジル (2003年12月~2004年2月)

ブラジルでは12月末から大雨による洪水や土砂崩れが各地で発生。2月中旬までに160人以上が死亡、約23万人が避難。

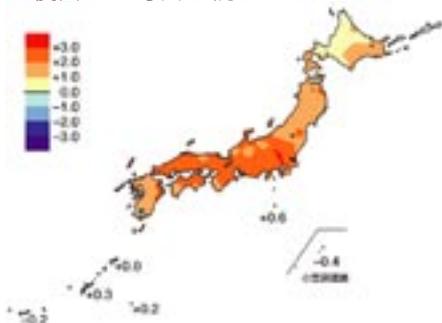
異常気象の頻発

2004年は、大型台風や集中豪雨等に伴う気象災害の多発によって、異常気象と地球温暖化の関係について近年になく関心が高まりました。

2004年夏、日本は猛暑となった。

日最高気温が30℃を超える「真夏日」の日数が、東京(大手町)では70日となる等、日本各地で記録を更新しました。

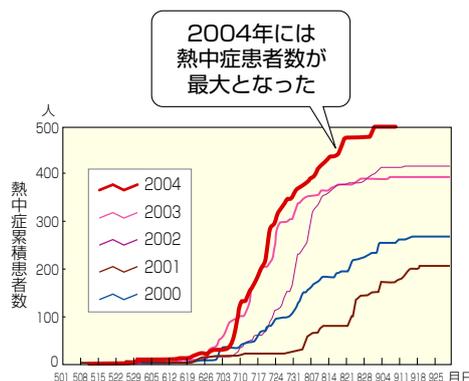
また、最低気温が25℃より下がらない「熱帯夜」の日数がこの100年間で5倍以上に増加した都市もあり、暑く寝苦しい毎日が続きました。



■ 2004年7月の気温の平年差(℃)
(文献6より)

2004年、熱中症の患者数が過去5年で最大

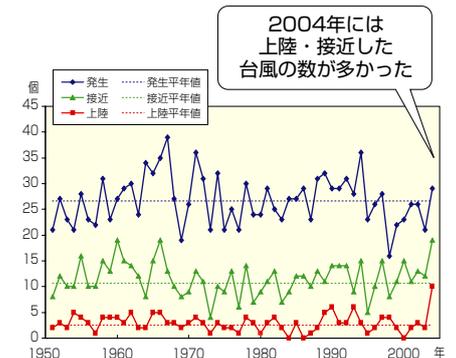
暑い日には熱中症が多く発生します。東京23区では、2004年には、熱中症の患者数が7月上旬から急増し、過去5年間で最大となりました。



■ 東京23区の熱中症の累積患者数(2000~2004年度)(文献7より)

2004年、過去最多の台風が日本に上陸。集中豪雨も頻発

2004年、日本では、集中豪雨の頻発に加え、これまでの最多記録となる10個の台風上陸により、甚大な被害が発生しました(平年の台風上陸数は2.6個、過去の最多上陸記録は6個)。



■ 台風の発生、接近、上陸個数
(文献8より)